



チョップドチンク Complete Impression その過激なる走り!!

コロんとしたシルエットが身上的なフィアット500。しかしここに現れたのは、うずくまるように背の低いチンクだった。ドイツのチューナー、G-TECHが手掛けたコンプリートカーを山田弘樹がテストした

問●G-TECHジャパン TEL.052-400-5554 www.g-techgmbh.jp
写真●小林 健 文●山田弘樹



↑足もとにはOZ製のオリジナル"corse"マッドブラックを装着。ブレーキはフロント4ポッド+305mm/リア264mmを装着

ルーフの高さはノーマル比マイナス100mm!!

→ウインドウの面積が異様に少なく見えるサイドビュー。ルーフのラインは完全に変更されており、窓はなんと途中までしか開かない



←135ps/180Nmから224ps/335Nmにまで引き上げられたエンジンは実にスパイシー。チューンダウンがほしい驚愕さだ

●PRICE
SportStar GT ¥6,980,000
SportStar S ¥6,580,000

G-TECH Sport Star GT



↑超小径のステアリングがよく似合う。シフトはクイックシフターを装備。ロード交換ではなくアッセンブリなので動作は確実だ



↑エンドパイプは100φの左右出しとかなりの迫力。純正ディフューザーに合わせられる。またセンター出しタイプも用意されている



↑リアはプラスチック製のウインドウに変更され、軽量化が図られている。ピラーやルーフの形状は自然で切り貼りしたようには見えない



↑開口部を大きくとったフロント。パワーアップが必要なエアを効果的に取り込めることができるとともに、迫力のある顔つきにもなった



→リアシート部分は取り払われ、完全な2シーターとなる。もちろん席があったところで、天井の低さから座ることは難しいハズ

カワイイふりして刺激的な章駄チンクここに参上
ひと目ただけでわかる、そのた
だならぬ雰囲気。単なるローダウン
ではなし得ないルックスをよく見れ
ば、なんとそれはチョップドルーフ
のチンクエチェントだった!
これはドイツのチューナーである
「Gテック・エンジニアリング」が
作ったコンプリートマシン。その名
を「スポーツスターGT」という。
Gテックエンジニアリングは20
01年にドイツで誕生した、フィア
ット/アルトを専門とする会社だ。
その代表であるヘルムート・ギール
スは、1980年代にあのルーフで
修行した経歴を持つ人物。そしてG
テック・エンジニアリングのコンプ
リートカー及びチューニングパーツ
を、このたび日本のエクスプライド

な、心地良い狭さが得られる室内だ。
そしてアクセルを踏み込むと、こ
の世界観が強烈に加速する。300
0rpm以下だと過給圧が立ち上がり
にくく、いったんブーストが落ち
ればギアを一段下げなければなら
ないターボの特性に、最初はチュー
ニングカーの宿命を感じたが、それは
真の姿ではなかった。というのも純
正の「スポーツモード」で走ってみ
ると、常用域から過給が掛かり続け、
どこから踏んでも加速する。さらに
アクセルを踏み続けければ、速度はみ
るみる上がり、思わずアクセルを緩
めるほどの章駄天ぶりなのである。
対して足周りは、車高の低さを強
調するためだろ必要以上に低めら
れており、特にコーナリング面でダ
ンパーの底付きが目立った。この状
態で乗り心地を確保するために、減
衰力を弱めていたのもそれに拍車を
掛けていた。筆者的には、これだけ
の性能を持つマシンだからこそ、車
高は適正値にまで上げた方が良く
思う。低さは既に、チョップドトッ
プで得られているわけであるし。そ
うすればこのスポーツスターGT
は、本家のアルト695トリビュ
ートフェラーリでさえ、ストリート
でも、コーナーでもあっさりとした
去りにしてしまうはずだ。
ちなみにスポーツスターGTの価
格は698万円! 参考までに同じ
エンジンチューンを施した「EVO
1R224」は458万円と、本
家のハイエンドモデルたちに並ぶ。
本家のワランティを取るか、孤高の
スピードを取るか。アルト500
において悩ましい選択肢が、またひと
つ増えたことになる。

社が総代理店として輸入販売するこ
とになった。そのお披露目第一号と
なるのが、フラッグシップモデルであ
るスポーツスターGTというわけだ。
ベースとなるのは、フィアット5
00のハイパワーターボモデルであ
る500アルト。1.4リッター
135psの心臓は、タービン/イン
タークーラー/ECU等を変更した
「Gテック224psキット」と排気
システムによって、その名の通り2
25ps/5200rpmにまで高め
られているという。また駆動系も機
械式LSDの装着に加え、最高速巡
航を意識したであろうロングレシオ
の5速ギアが投入されるなど、緻密
なチューニングが施されている。
足周りはビルシユタイン製ダンパ
ーをベースとしたオリジナルの車高
調キットで、ブレーキはフロントに
対向4ピストンキャリパーとドリル
ドローターを装着。タイヤは前後2
05/40ZR17のPゼロで、ホイール
にはOZレーシング製アレジェリ
ータ「コルサ」を履かせていた。
インプレッ的に気になるのは、そ
の独特なアビラランスだろう。全高
100mm低められたというチョップ
ドルーフは、短くなったAピラーと
ルーフ用に、フロント/サイドのガ
ラスとモールを専用設計。リアクォ
ーターとハッチのガラスは樹脂製と
なっている。
さてそのステアリングを握ってみ
ると、とにかく車内は狭い! ただ
しそれは褒め言葉だ。もともと視界
が広いチンクエチェントだけに、寝
かせたAピラーの圧迫感はずほど感
じず、むしろスポーティな印象が強
くなる。たとえばミニクーパーのよう